

1. 総括

感染予防の対策を継続しながら、企業見学や実習を行った。専門的知識をもつ経験豊かなプロ講師によるオンラインでの学習会を継続して行った。見学や実習、学習会、訓練を利用者の特性や希望に合わせ個別に行った。

企業や障害者就業・生活支援センター、医療機関、ご家族、グループホーム世話人等と連携し、昨年度就労した方の定着支援を行った。

利用者が「ありのままで自分の人生を選ぶこと」を尊重し、一般就労に限定せず、就労継続A型事業所への見学も行った。様々な選択肢の中で、就労移行からの就労ではなく、家族や地域の力を借りて自ら就労先をみつけた事例もあった。

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	20	19	22	20	21	20	20	20	20	19	19	22	242
1日平均利用者数	2	3	3	3	4	2	2	2	2	1	1	1	2
延利用者数	44	58	68	64	74	47	30	30	32	21	14	32	514

※主な欠席理由：体調不良・精神不安定・家事都合

3. 担当職員

サービス管理責任者：宇賀神美菜子

就労支援員：関口明日香

生活支援員：桐生みち子

4. 成果と課題

(1) 就労支援

【成果】

- ・事前に検査の目的を伝え、同意を得た。
- ・検査結果をご本人、ご家族と共有し、個別の支援計画に反映させた。
- ・受給者証取得→(検査計画→日程調整)→契約→アセスメント検査

→個別支援計画作成→通所利用開始の流れを作って、丁寧に利用者の受け入れを行った。
WAISIV、TTAP、Vineland、アナリシステスト(ブレインテスト)、STAI、BWAP実施

- ・企業見学では、実際に働いている人たちの現場を見学し、仕事のやり方や環境も体験することでリアリティのある就労イメージを持つことができた。また、経営者や担当者からの話を聞き、好きな仕事とできる仕事の違いを学ぶことができた。
- ・企業見学を通して、企業側への理解啓発をする事で実習受け入れ可能企業を71か所まで増やすことができた。

(東京インテリア配送センター、東京インテリア第二本部、東京インテリア宇都宮店、東京インテリアインターパーク店、ヤマト運輸(株)、ユニクロ宇都宮店、(有)真京精機、ビバホーム鹿沼店、ヨークベニマル鹿沼睦町店、ヨークベニマル千渡店、特別養護老人ホームハーモニー、セントラルカッティング(株)、ウッディパネル(株)、(株)JSPモールディング、栃木トヨタ(株)、(株)ナカニシ、菓子工房松屋、シンフォニーあわの、鹿沼花の風、(有)マーサーズ、(株)ザ・フォウルビ、河淳(株)、ゼブラ(株)、(株)シーボン、(株)共

立、こいしや食品(株)、(株)こぶし急便、(株)ヤオハンフードセンター、(株)やさしい手、カワチ薬品千渡店、ランスタッド(株)テクノセンター、温泉パン(株)、さわやか鹿沼館、(株)薄井工務店、(株)アクティチャレンジ、(有)アップライジング、上陽工業(株)、オリックスレンタカー栃木(株)、北関東物流(株)、大谷いちごクラブ、植木鋼材(株)、(株)イシカワ、鹿沼市立図書館、サンプラスチック(株)、(株)総研、(株)ジャパンエコロジーシンキング、(有)米菓工房和、バンダイナムコウィル鹿沼、(株)ヒーロー、フライングガーデン、(株)若山商店、ガーデンクリエイイト(株)、(株)生晃、のざわさんち、(株)真岡製作所、月とスパイス、軍鶏屋、(株)白龍堂、飛行船、すす新鹿沼駅前店、大関種苗園、フリースタイル、板荷無量壮、ゼウスカークリーン、マルハン鹿沼店、スチレン加工、福田屋鹿沼店、コストコ壬生倉庫、トランスメイト、KUDEN、日清医療食品) 順不同

・施設内の実習では、本人の特性がわかり、本人に合った作業に取り組んでもらうことで自己肯定感を高めることができた。治具や指示書、スケジュールの提示をすることで、自立して作業に取り組めるようになった。

・企業実習ではCSAWやDACなどを活用し、具体的な評価をすることで、自分にはどのような職業があるのかを確認できた。

・職場体験実習では、地域の人たちに働く姿を見てもらい、認めてもらい、交流を重ねることで自信がつき、企業実習へ意欲的になった。

・障害者就業・生活支援センターと連携し定着支援を行った。

・障害者職業センターでの職業評価制度を活用し、利用者の自己理解を深め、就労への意識向上をはかった。

・学習会として、見学の振り返りを行い、自己評価・他者評価を確認することで自信や自己理解のプロセスにつながるきっかけになった。また、利用者さんが日頃感じている悩みや困りごとの意見交換ができ、互いに励まし合いながら向上することができた。

・定期的に、学習会を開催することができた。対面での講座を再開し、並行してオンラインの講座も継続した。(アドラー心理学、マインドフルネス、CLSP、グッドヘルス講座、ヨガ講座) 就労を続けるために必要な感情のコントロールの仕方や、食事と健康について学ぶことができた。

・ご家族とのコミュニケーションを積極的に行い、連携して支援した

(2) 生活支援

【成果】

・就労した方の職場へ余暇活動として出向き様子をみることで、就労へのモチベーションアップをはかった

・GHの職員と情報を共有し、同じ目標に向かって支援することができた。

(3) 入口強化

・今年度、Epic→自立訓練→就労移行の流れで、一般就労につながる事例があった

(4) 職員会議・支援会議

○職員会議

・月に1回開催

○支援会議

・月に1回開催

研修会

今年度は公益財団法人日本社会福祉弘済会の助成金をうけ

”辛くならない支援“と持続可能な関係作りを考える

「心と人に寄り添うセルフコンパッションの地域づくり研修事業」

と題し、講師を招き、支援をする上での「セルフケア」研修を行った

5月：読売新聞編集委員 山口博弥氏

『「セルフコンパッション」という思いやりの力の取材現場事例から』

7月：NTTコミュニケーション科学基礎研究所リサーチスペシャリスト

藤野正寛氏

『「セルフコンパッション」という思いやりの力は、身体・神経・脳にどのような変化を起こしているのか？』

10月：上智大学グリーフケア研究所特任教授 心理療法士 栗原幸江氏

『“辛くならない支援と持続可能な関係づくりの”のためにセルフコンパッションを身につけるには』

1月：人間環境大学総合心理学部教授 伊藤義徳氏（オンライン講座）

『「課題のある子どもたちを支援するヒントとなるセルフコンパッション』